

## 第6学年1組 音楽科学習指導案

令和3年9月24日 金曜日 第2時

指導者 権田優菜

### 1 単元 音のスケッチ (1)

#### 2 単元の目標

- (1) 動機の変化のさせ方やフレーズのつなげ方について、それらの生み出すよさやおもしろさなどと関わらせて理解するとともに、リズムや音の高さを変化させて短いフレーズをつくったり、音楽の仕組みを用いて音楽をつくったりする技能を身に付けることができる。
- (2) 音の動き方やフレーズのつなげ方を聴き取り、それらの動きが生み出すよさを感じ取りながら聞き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 動機を基にした旋律づくりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

#### 3 単元の計画 (現職教育の取組)

一学期の音楽の授業では、新型コロナウイルスの影響により器楽の演奏や歌唱の活動が十分に行えず、代替えとしてリズム打ちの活動を行った。しかし、音符や休符の長さやそれらの関係など音楽の仕組みについての理解が漠然としかできておらず、何となく拍を打っているだけでフレーズを感じたり音の長さに注目したりできていない児童が多くいた。

本単元では、動機(独立した楽想を盛った最小単位のいくつかの音符ないし休符の特徴的な連なり)をもとにして曲をつくる活動において、楽器ではなくプログラミングソフトを活用する。自分ではなく機械に演奏させるので、コーディングに従って機械が音の長さや高さを示してくれる。よって、音楽の仕組みや音程の理解が不十分な児童は、自分のイメージと実際の音とのすり合わせができる。また、楽器を演奏する技能が十分ではない児童でも学習活動に取り組みやすくなる。さらに、他の人の工夫を取り入れやすくするためグループでイメージを共有するようにし、自分のつくりたい曲になるよう見直し、試行錯誤をさせていく。これによって、リズムや音の長さ、高さなど多面的な視点から音楽を聴き、音楽の仕組みへの理解を深めると共に、自分の表現したいことが表せるように見直していく力を身に付けさせるため、本単元を計画した。

##### 【単元前の児童の姿】

音楽の仕組みを十分に理解しておらず、音楽活動を十分に楽しむことができてない。

- 第1次 ① 知っている曲から動機を見つけ、それをもとに短いフレーズをつくり、動機の変化のさせ方を楽しむ。
- ② (本時) 動機をもとにして、つくりたいイメージに沿って曲をつくる。
- ③ 他の人の工夫を参考にもう一度曲をつくる。

##### 【単元後の児童の姿】

音楽の仕組みについて理解を深め、自分のイメージに沿って曲をつくり、音楽活動を楽しむことができる。

本時では、前時で動機の変化のさせ方を学習したので、それをもとに自分のイメージに沿って曲をつくる。リズムや音の長さ、音の高さを変えたり、音型の一部を取り出したりという前時で学習した工夫を活用させ、自分のイメージする曲になるように見直しをさせたい。

#### 4 本時の学習指導

- (1) 目標
  - 動機をもとにして、音楽の仕組みを守りイメージに沿って音楽をつくることができる。
- (2) 準備・資料
  - 児童……タブレット端末、ワークシート
  - 教師……タブレット端末、プログラミングロボット
- (3) 関連
  - 6年 総合 プログラミング学習

(4) 学習過程

| 段階               | 学 習 活 動   | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項  |
|------------------|---|----|--|
| つ<br>か<br>む      | <p>1 前時の活動内容を確認する。</p> <p>(1) 動機の変化のさせ方を思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムや音の長さを変える。</li> <li>・音の高さを変える。</li> <li>・音型の一部を取り出す。</li> </ul> <p>2 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>音楽の仕組みや曲全体のまとまりに気をつけて曲をつくろう</p> </div>   | 8  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○タブレット端末はあらかじめ起動させておく。</li> <li>○もともになる動機とそれらを変化させた例を示し、工夫の方法を具体的に想起させる。</li> <li>○漠然と曲をつくるのではなく、つくりたい曲のイメージに沿って、動機を変化させ曲をつくることを伝える。</li> </ul>   |
| 追<br>究<br>す<br>る | <p>3 曲のイメージを考え、曲をつくる。</p> <p>(1) つくりたい曲のイメージを決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・激しい感じ</li> <li>・楽しい感じ</li> </ul> <p>(2) 動機を変化させてフレーズをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・激しい感じにしたいから、音の長さを変えて細かくしよう。</li> <li>・四分音符は八分音符二つ分だから、四分音符二つを八分音符を四つにしよう。</li> </ul> <p>(3) 工夫を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の人は四分音符を十六分音符に変えているな。</li> </ul> <p>(4) フレーズを組み合わせて曲にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音の長さを十六分音符に変えるフレーズと、音の長さを八分音符に変えるフレーズを使おう。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(5) コーディングし、イメージした曲になるよう調整する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八分休符のはずの所が四分休符の長さになっていた。</li> <li>・音の長さを変えたけど、音の高さを下げた方が激しい感じがするかな。</li> <li>・ドの音が3つ続くより、変化がある方が激しくなるかな。</li> </ul> </div> | 25 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽の感じを表す言葉を列挙し、その中から自分のイメージに近いものを選びせる。</li> <li>○グループで考えを共有し、類似しているイメージをしぼらせる。</li> <li>○選んだイメージを表現するためにはどのように工夫すればよいか、工夫の方法から選ばせ、それをもとにフレーズをつくらせる。</li> <li>○音楽の決まりを守れているか確認させる。</li> </ul> <p>評 自分のイメージに沿って動機を変化させ、音楽の仕組みを守ってフレーズをつくることができる。 (ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○工夫の共通点や相違点に注目させ、自分にはない工夫を探させ、それを参考に新たなフレーズをつくらせる。</li> <li>○動機を意識できるよう、曲の初めと終わりは動機のもとの形をあてはめさせる。</li> <li>○作ったフレーズの中から、よりイメージに合いそうなものを選びせる。</li> <li>○リズムや音の長さ、音の高さなどに注目させ、つくったフレーズ通りにコーディングできているか見比べて確認させる。</li> <li>○1オクターブ上げ下げしたり、音を変えたりして、イメージ通りの曲になるようにさせる。</li> </ul> <p>評 様々な工夫を活用し、つくった曲を見直しながら、曲づくりをすることができる。 (プログラム、活動の様子)</p> |
| ま<br>と<br>め<br>る | <p>4 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 音楽の仕組みを守って曲ができたか確認する。</p> <p>(2) 次時の活動内容を知る。</p>   | 45 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○特にコーディングした休符の長さについて確認させる。</li> <li>○次時は、グループで曲を聴き合い、自分たちの曲をさらに見直すことを伝える。</li> </ul>  |

(5) 本時の評価規準

- 音楽の仕組みを守り、イメージに沿って工夫しながらフレーズをつくり書いている。 (ワークシート)
- つくった曲が音楽の仕組みやイメージに合うかどうか見直ししながらコーディングしている。 (プログラム、活動の様子)

5 指導と評価